

令和2年度北九州市立美術館運営評価シート

評価項目1: 作品～資料収集・環境管理・保存～

| 計 画 | | 実 施 | | 検 証 | | 今後の対策 |
|--|-------------------------|---|---|--|--|--|
| 5カ年計画 | 評価指標 | 令和2年度の取組み | 実 績 | 自己評価 | 課題・原因 | |
| <p>開館以来の収集方針や所蔵内容を踏襲しながら、持続可能な収集活動を目指す。収集対象は、下記の分野に重点を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代の多様性を示す優れた作品 ○地域の美術史を構築する上で欠かせない作品 ○近現代美術史の展開をたどる既存コレクションの充実・補完 | ○美術作品の収集内容 | <p>①既存コレクションを充実・補完するため、所蔵作家の調査に基づいた作品・関連資料を収集する。</p> | <p>・コレクション展で特集した野見山暁治の作品10点の寄贈を受け、既存コレクションを充実させることができた。</p> | <p>調査研究、展覧会開催の成果として収集に結びついたものとして評価できると判断した。</p> | <p>・本市ゆかりの作家や、企画展関連作家の作品に厳選して収集することができた。 ・これまでに当館が収集研究を続けてきたことが、所蔵者や遺族からの寄贈につながったものと考えられる。</p> | <p>・収集方針に基づき、持続可能な収集活動を目指す。 ・限られた収集予算のなかで優れた作品を厳選する。</p> |
| | | <p>②各企画展や「guest room」など、当館事業に関わる作家の調査に基づいた作品・関連資料を収集する。</p> | <p>・昨年度「guest room」で紹介したAKI INOMATAの作品を購入し、寄贈も受けることができた。また昨年度開催した共同企画展の出品作家である高橋秀・藤田桜の寄贈を受けた。</p> | | | |
| <p>所蔵作品・資料の管理に必要な保管環境を整備し、必要に応じて作品修復を行う。</p> | ○修復作品の内容・選定理由 | <p>①緊急性の高い作品から順次修復を行う。</p> | <p>来年度コレクション展などで紹介する版画作品、浮世絵作品143点のマット装を新調した。</p> | <p>経年劣化の激しい作品のマット装を新調することができた。また、収蔵庫内の点検と清掃を週1回のペースで通年行い、収蔵庫内の環境を常に把握することができている。</p> | <p>・浮世絵、版画作品のうち古いマット装を新調することができた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、修復家の来北や、修復作品の運送が難しく、油彩画の修復は来年度に見送った。</p> | <p>・次年度以降の出品予定、貸出予定を想定し、修復を計画的に進める。 ・引き続き日常的に収蔵庫内の点検・清掃を行い、作品と保管環境の安全を確認する。</p> |
| | ○収蔵庫の環境整備状況 | <p>②日常的に収蔵庫内の点検・清掃を行い、作品と保管環境の安全を確認する。</p> | <p>週1回のペースで、学芸員による収蔵庫内の清掃作業および保管環境の安全確認を行った。</p> | | | |
| <p>当館所蔵の作品及び図書データベースを整備し、開館50周年となる2024年の一般公開を目指す。</p> | ○データベースの整備と公開に向けた取組みの状況 | <p>①作品データベースの資料作成、精査を行う。</p> | <p>デジタル撮影した所蔵品画像や、作品の修復歴について、データベースに未入力のものを入力することができた。またコレクション展出品作品については、再調査した内容をデータベースに反映することができた。</p> | <p>・積極的に取り組んではいるが、公開する状態に至るには進捗が遅れている。</p> | <p>・作品データベース、図書データベースのいずれも努力を続けているが、作業量に対してのマンパワーが不足している。</p> | <p>・マンパワー不足については、予算要求を続けるとともに、スケジュールや規模など計画自体の見直しも検討する必要がある。</p> |
| | | <p>②図書データベースの資料作成、精査を行う。</p> | <p>新規受け入れ図書の登録、配架を行った。また、データ化されていない雑誌の在庫を確認し、入力作業を一部行った。</p> | | | |
| | | <p>③作品・図書をよりよく活用するための整理を行う。</p> | <p>図書データベースの整備にあたり、全国の美術館、美術大学等に関する書棚を総点検し、配架図書の整理と重複図書の間引き、データ化されていないものの入力を行った。</p> | | | |

総合評定
B

(評価) A: 大変良い B: 概ね良い C: やや悪い D: 大変悪い

令和2年度北九州市立美術館運営評価シート

評価項目2:公開～調査研究・展覧会～

| 計画 | | 実施 | | 検証 | | 今後の対策 | | | |
|--|--------------|---|--|---|--|-------|---|---|--|
| 5カ年計画 | 評価指標 | 令和2年度の取組み | 実績 | 自己評価 | 課題・原因 | | | | |
| 企画展やguest roomを通じ、新収蔵や研究発表を見据えた新鋭作家の調査を行う。 | ○作家についての調査内容 | ①コレクション展における特集展示「guest room」第5回展、自主企画展「アートのなかのSF展」(東アジア文化都市北九州関連事業)を開催する。 | ・目標とした特集展示「guest room 005 小野耕石 波絵立ち上がる行為、積層する絵具」では、個性ある展覧会を実現した。 ・現代作家に新作等を依頼する「アートのなかのSF展」は中止せざるを得なかったが、急遽「ことばとイメージ」展を開催し、当館の版画コレクションの魅力を紹介することができた。 ・移動の制限が生じたため、オンライン等での打ち合わせも積極的に取り入れた。 | ・次年度以降の展示に向けた作家、作品調査も実現できた。 | <table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table> | 評価 | A | ・作品実見など、現地に調査に赴かざるをえず、すべてオンラインで済ますことは難しい。 | 企画展調査は数年越しの長期に及ぶため、以前に増して計画性をもって進める必要がある。 |
| 評価 | | | | | | | | | |
| A | | | | | | | | | |
| 所蔵作家に関する対面調査、資料収集を蓄積し、研究論文、口頭発表等を行う。 | ○研究成果の件数・内容 | ①自主企画展「アートの中のSF展」(東アジア文化都市北九州関連事業)「guest room」第5回展の開催にあたり、論文公開や口頭発表を行う。 | ・論文等発表件数 3件 ・口頭発表件数 6件 ・自主企画展や共同企画展の図録に論文を掲載するなど、幅広い媒体で研究成果を発表することができた。 | ・コロナ禍で展覧会の変更、中止が生じた結果、昨年度の実績よりは件数がさがったが、県内での研究会など、可能な範囲で成果をあげることができた。 | <table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>B</td></tr> </table> | 評価 | B | ・自主企画展や共同企画展、その他の場において、論文執筆や口頭発表することができた。 | ・継続して調査研究を続け、テーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。 |
| 評価 | | | | | | | | | |
| B | | | | | | | | | |
| 調査研究に基づいたテーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。 | ○企画の内容 | ①テーマの異なる3つのコレクション展(シュルレアリスム、現代アート・セレクション、野見山暁治)を開催する。 ②「アートの中のSF展」(東アジア文化都市2020北九州関連事業)で現代作家を紹介する自主企画展を開催する。 | ・「特集 シュルレアリスムを感じる7つの要素」では当館所蔵作品に新たな視点を見出すことができた。「特集 現代アート・セレクション」では当館の豊かな現代美術をまとめて紹介することができた。「特集 野見山暁治」では既存コレクションと、新収蔵品、作家蔵のものを展示し、100歳になる野見山の画業を大々的に紹介することができた。 ・現代作家に新作等を依頼する「アートのなかのSF展」は、移動の自粛などが生じる中、中止せざるを得なかった。 ・急遽「ことばとイメージ」展を企画し、当館の版画コレクションの深みを紹介した。 | ・コロナ禍で様々な制約、変化が生じる中、できる限りのことを行った。 ・野見山暁治は、1983年に初めて当館が公立美術館として個展を開催した画家であり、40年後、コレクションに、新収蔵品を加えて、現在までの画業を取り上げられたことは意義深い。 | <table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table> | 評価 | A | ・自主企画展での取組みに加え、コレクション展でも「特集展示」という形で所蔵品の魅力を引き出すための努力を成果として出すことができたと考えられる。 ・また、小学生を対象とした「ミュージアムツアー」を想定しつつ、一般にも見ごたえある構成を心がけた。 | ・継続して調査研究を続け、テーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。 |
| 評価 | | | | | | | | | |
| A | | | | | | | | | |
| 他館、他機関と協同し、連携企画展や共同調査を行う。 | ○連携の件数・内容 | ①「GIGA・MANGA」展(東アジア文化都市2020北九州関連事業)において、京都国際マンガミュージアム、すみだ北斎美術館、東北歴史博物館と共同で展覧会を企画する。 ②「アートの中のSF展」(東アジア文化都市2020北九州関連事業)において、北九州市漫画ミュージアム、北九州市立文学館とテーマを協同し同時開催する。 | ・京都国際マンガミュージアム、すみだ北斎美術館、東北歴史博物館と連携した共同企画展「GIGA・MANGA展」を開催した。 ・「GIGA・MANGA展」の図録は、第62回全国カタログ展図録部門にて日本マーケティング協会賞、銀賞を受賞した。 ・「アートの中のSF展」は、中止せざるを得なかったが、東田ミュージアムパーク・連携講座「妖怪・幻獣学の現在」のインタビューをつとめるなど、市内の関連施設との連携につとめた。 | ・コロナ禍で様々な制約、変化が生じる中、できる限りのことを行った。 | <table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table> | 評価 | A | ・「GIGA・MANGA展」の図録は、第62回全国カタログ展図録部門にて日本マーケティング協会賞、銀賞を受賞するなど、外部からの評価も受けることができた。 | ・共同企画展の場合、巡回としての立ち上がり時期と当館での開催時期が異なる場合が多いため、業務の繁忙期を見極め、スケジュール調整していく。 |
| 評価 | | | | | | | | | |
| A | | | | | | | | | |
| 総合評価 | | | | | | A | | | |

(評価) A:大変良い B:概ね良い C:やや悪い D:大変悪い

令和2年度北九州市立美術館運営評価シート

評価項目3: 交流～教育普及・地域交流～

| 計画 | | 実施 | | 検証 | | 今後の対策 |
|---|------------------------|---|--|--|---|---|
| 5カ年計画 | 評価指標 | 令和2年度の取組み | 実績 | 自己評価 | 課題・原因 | |
| 教育現場や教育委員会と連携し、小中学生等が美術に触れ、楽しむ機会を広げる事業を実施する。 | ○参加校の満足度 ○実施状況(②のみ) | ① 市立小学校3年生を対象に「ミュージアム・ツアー」を実施し、対話型鑑賞を实践する。コロナウイルスの影響により、5月～8月に予定されていたツアーが中止。対象となる学校に改めて希望を募り、9月よりツアーを実施する。中止校については、再募集を行い、12月中旬から1月にかけて追加実施をする。 | ○ミュージアム・ツアー参加校 72校(当初参加予定132校 中止校60校) ○アンケートの結果 ・参加について 65校中64校が「満足」「やや満足」と回答 ・子どもたちの反応について すべての学校が「満足」「やや満足」と回答 ・美術館、ガイドの対応について 65校中64校が「満足」「やや満足」と回答 ・説明会、事前打ち合わせについて 65校中64校が「満足」「やや満足」と回答 ・実施日について 65校中64校が「満足」「やや満足」と回答 | <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 評価 A </div> コロナウイルス感染症拡大の影響により、ほとんどの学校行事が中止となっている中での実施であったため、アンケートの全項目において、「満足」「やや満足」との回答が多く見られた。 事前説明映像を用いることで、教員へのマナー周知に関する問題は解決された。 市内小学校において、短縮授業の実施、2学期制の導入のため、学校生活に沿ったスケジュール変更を行ったところ、やや不満の回答からは、ゆっくり鑑賞するために実施時間を延長したいとの意見のみであった。 | 天候に恵まれないツアーが多くあった。 ガイドスタッフ間での、経験の差が拡大している。 特別支援学校の来館がすべて辞退となった。 | 天候不良の際の対応等学校への配慮を行いたい。 ガイドの経験年数に合わせた研修プログラムを考案していきたい。 病弱児童の受入れや感覚過敏によるマスク着用が難しい児童などを想定し、感染症対策の方法を見直したい。 ミュージアム・ツアーにおいて、児童がより美術に触れ、楽しむ機会を広げるため、年齢の近い高校生、大学生にチューター役として参画してもらう。 また、参加するチューターにも将来の地域文化振興の担い手としての育成に結び付く環境を提供する。 |
| | | ② 新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながらミュージアム・ツアーを実施する。 | ○感染症対策を踏まえた前年度からの変更点 ・受入可能人数を60名とする ・複数校での同時実施を取りやめとする ・密集を避けるため、全体挨拶を取りやめ、事前学習用のDVDを配布 ・1グループの人数を8名から4名へと縮小 | | | |
| 子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にしたワークショップ、講演会、ギャラリートーク等を実施する。また、複数年にわたり継続した市民参加型のアートプロジェクトを実施する。 | ○参加者の満足度 | ① 各展覧会と連動したワークショップを行う。 | ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、従来の来館型のワークショップは中止せざるを得ず、新たにオンラインでのワークショップを立案し、実施した。 ・参加者28人 | <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 評価 A </div> ・「ぬいかけの植物園計画室」ではリピーターの参加など、継続開催の成果が出ている。また10年続けることを念頭に置いた企画であり、社会情勢が変わる中、オンラインで今年度も開催することができたのは意義深い。 ・臨時休館が続く中、塗り絵、ワークシートを配信するなど、新たな試みを行った。 | ・5カ年計画の目標に基づき、コロナ禍でも可能な方法を模索し、教育普及事業を展開することができた。 | ・さまざまな年齢やジャンルを意識した多彩な企画を今後も用意する。 |
| | | ② 各展覧会で講演会やギャラリートークを行う。 | ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、講演会やギャラリートークの開催は中止せざるを得なかった。 ・臨時休館が続く中、「おうちで楽しむ北九州市立美術館」の企画をたちあげ、ワークシートなどを配信し、自宅でも楽しめる企画を行った。 | | | |
| | | ③ 長期ワークショップ「ぬいかけの植物園計画室」を実施する。 | ・毎年恒例となった「ぬいかけの植物園計画室」では、リピーターも増えていたが、コロナ禍により、オンラインでの開催を試みた。 ・参加者81人 | | | |
| 現代の社会状況に対応した、独自の自立型のボランティア制度を構築する。 | ○ボランティア制度の運営状況 | ① プロジェクト班、鑑賞サポート班、美術情報班の3班に分かれたボランティア活動を支援する。 | ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、ほとんどの活動を中止せざるを得なかったが、10月から美術情報班活動は3か月ではあるが、再開することができた。 ・美術館に集まって活動できないメンバーとのつながりを維持するため、定期的なメール配信を試みた。 | <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 評価 B </div> ・メール配信や、感染対策を講じた上での美術情報班活動の一部再開など、可能な範囲での活動を行った。 | ・ボランティアによる一般来館者向け鑑賞プログラムを実施しようとしていた矢先、活動が休止となった。 ・ボランティアの年齢、職業などが多様化しており、来館して集まることが難しい中、ボランティア同士の交流、連帯感を維持していくのが難しい。 | ・コロナ禍が長引く中、オンライン会議ツールなどを活用したりリモート勉強会なども検討する。 |
| | | ② (新規) ボランティアによる一般来館者向け鑑賞プログラムを実施する。 | ・来館者やメンバー同士での会話が避けられない鑑賞サポート班の活動は中止せざるを得なかった。 | | | |
| | | ③ ボランティア活動を充実させるための研修・講義を行う。 | ・美術館のイベントも中止している中、研修、講義等を開催することはできなかった。 | | | |
| 他館、他機関との連携を促進し、同時に連携の内容を工夫する。 | ○参加者の満足度 ○実施状況 | ① 北九州芸術劇場と連携し、コレクション展をテーマにした公演「切り裂かれたキャンパス」を行う。 | ・実施に向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止せざるを得なかった。 | <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 評価 - </div> ・社会情勢を考えると、中止はやむを得ない判断である。 | ・来年度、公演を企画する。 | |
| | | | | <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 総合評価 B </div> | | |

(評価) A: 大変良い B: 概ね良い C: やや悪い D: 大変悪い

令和2年度北九州市立美術館運営評価シート

評価項目4: 広報～利用促進のための情報発信～

| 計 画 | | 実 施 | | 検 証 | | 今後の対策 |
|--|---------------------------------------|--|---|--|---|---|
| 5カ年計画 | 評価指標 | 令和2年度の取組み | 実 績 | 自己評価 | 課題・原因 | |
| <p>展覧会等の傾向や予想される観客層などを分析し、SNS等も活用した効果的な広報活動を行う。 また、外国人向けの広報も充実させる。</p> | <p>○広報の内容 ○入館者数 ○アンケートの方法</p> | <p>①美術館に対する市民のニーズを把握するため、アンケート方法の見直しを行う。 (出口調査、館外での実施など)</p> | <p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から館内におけるアンケートは実施しなかった。</p> | <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、アンケート調査は実施しなかった。 市民センターへPRを行ったが、新型コロナウイルスの影響もあり生涯学習講座としての実際の利用はなかった。 インバウンドパンフなどを活用したPRについては、現在の海外渡航制限などの状況を踏まえて実施しなかった。</p> | <p>新型コロナウイルス感染症の状況が改善されれば改めてアンケート調査などによるデータ収集も再開する必要がある。 SNSを利用した広報については、どのくらいの方がみて、どのくらいの反応があったのか等の評価の指標が必要である。また、展覧会ごとのターゲットを踏まえたSNSの活用が必要である。 旅行会社については、展覧会の内容によるところが大きいので、いつ、どこの地域の旅行会社にPR活動を行うか今後の課題である。 市民センターへのPR活動は、毎年数件の問い合わせがあることから引き続き実施する。</p> | <p>団体客誘致、SNSの活用等の広報活動については、新型コロナウイルスの影響を踏まえた対策を検討する必要がある。</p> |
| | | <p>②美術館公式ツイッターまたはフェイスブックの開設を検討する。</p> | <p>○美術館の公式ツイッターは開設せず企画展毎の公式ツイッターを開設した。 ・ランス美術館展 入館者数 9,705人 ・GIGA・MANGA展 入館者数 8,754人 ・歌川国芳展 入館者数 12,708人 ・ことばとイメージ展 入館者数 3,431人 ・ショーンタンの世界展 入館者数 11,244人 ○美術館の公式のフェイスブックは教育普及事業のみ開設。</p> | | | |
| | | <p>③旅行会社等への積極的なPR活動に努める。</p> | <p>・市民センター(生涯学習事業)に対しPR活動を実施した。 ・団体利用実績のあるカルチャーセンターをポスターチラシ発送リストに追加し、展覧会ごとにPRを実施した。</p> | | | |
| | | <p>④インバウンド用のパンフレットを積極的に活用する。</p> | <p>○新型コロナウイルス感染症の影響からインバウンド対策の広報は実施しなかった。</p> | | | |
| <p>来館促進のための連携先の確保と、連携の内容を工夫する。 また、美術館友の会の活用を図る。</p> | <p>○連携の件数・内容</p> | <p>①他館と連携した割引特典等の企画を実施する。</p> | <p>2件 ・フジフィルム・フォトコレクション展において小倉昭和館と連携し出品作家のドキュメンタリー映画の上映のほか相互の割引特典などの企画を実施した。 ・ショーンタンの世界展において、北九州市漫画ミュージアムと連携して、来館促進のための相互PRを各々の会場で実施した。</p> | <p>他館と連携は2件のみ。 新型コロナウイルスの影響で展覧会スケジュールも変更を余儀なくされ他館と連携した広報、情報発信については、十分にできたとは言えない。 友の会の会報誌には展覧会情報を掲載した。</p> | <p>他館との連携については、他館の情報収集を含めて1年前ぐらいから実施する必要がある。</p> | <p>常時連携する連携先の拡充を検討する。</p> |
| | | <p>②美術館友の会会報誌による展覧会情報等の発信に努める。</p> | <p>美術館友の会会報誌を4回/年発行し、展覧会情報の発信を行った。</p> | | | |
| | | | | <p>総合評価</p> | <p>評定</p> | |
| | | | | <p>B</p> | <p>B</p> | |

(評価) A:大変良い B:概ね良い C:やや悪い D:大変悪い

令和2年度北九州市立美術館運営評価シート

評価項目5：環境～快適なアメニティ空間の演出～

| 計 画 | | 実 施 | | 検 証 | | 今後の対策 |
|---|-------|---|---|--|--|---|
| 5カ年計画 | 評価指標 | 令和2年度の取組み | 実 績 | 自己評価 | 課題・原因 | |
| <p>美術館内外の環境について、館の安全確保と適正管理に努める。 また、ホスピタリティマインドの向上に努め、市民に開かれた美術館を目指す。 加えて、老朽化が進んでいるアネックス棟の整備計画の検討を行う。</p> | ○実施状況 | <p>①警備、清掃、受付・監視、設備等の現場会議を行う。</p> | <p>令和2年10月警備、清掃、受付・監視、設備委託事業者との現場会議を実施。来館者への対応、施設の不備状況の再確認、緊急事態宣言等への対応等について協議した。</p> | <p>現場会議は1回の実施。美術館を適正に管理するためには、複数回実施し現場との意思疎通をとる必要がある。</p> <p>アネックス棟の改修工事予算については、予算要求を行ったが急遽本館美術品搬入エレベータの更新が必要となりエレベータ更新を優先させることになった。</p> | <p>アネックス棟は建築後34年を経過しており、老朽化が著しい。整備予算の確保に努める。</p> | <p>美術館については、ソーシャルディスタンスの確保、館内換気等の新型コロナ対策を十分に考慮した管理が求められる。</p> <p>対策を講じたうえで快適で安全な美術館空間の確保に努める。</p> <p>キャッシュレス決済(PayPay)については、実証実験の結果を踏まえ本格導入する。</p> <p>カード決済については、引き続き導入について検討を行う。</p> |
| | | <p>②老朽化に伴う事故を防止するため、建物(建築・設備・消防等)点検を徹底する。</p> | <p>特定建築物定期調査、建築設備定期調査、消防設備点検、電気設備精密点検を実施した。 アネックス棟西側・北側外壁の全面打診検査を実施し、不具合の判明したタイルを補修した。</p> | | | |
| | | <p>③アネックス棟の整備計画を検討し、予算の確保に努める。</p> | <p>2か年にわたる整備計画を策定し予算要求を行った。 また、アネックス棟に関するエレベーター3号機・4号機も令和5年度中に保守部品の供給が停止するため、併せて更新工事の予算要求を行なった。</p> | | | |
| | | <p>④消費税の引き上げにあわせ、来館者サービスの向上のためカード決済の導入について検討する。</p> | <p>バーコード決済(ペイペイ)の実証実験を開始し、観覧料及び物販の支払に対応した。</p> | | | |
| | | | | <p>自己評価</p> <p>評価 B</p> | | |
| | | | | <p>総合評価</p> <p>B</p> | | |

(評価) A：大変良い B：概ね良い C：やや悪い D：大変悪い